

①事業名	【69】文化財保護国際貢献事業	
②主管課及び関係課(課長名)	文化庁文化財部伝統文化課(課長:小松 弥生)	
③施策目標及び達成目標	<p>【施策目標】8-4 国際文化交流の推進による芸術文化水準の向上、文化を通じた国際貢献、諸外国との相互理解の増進</p> <p>【達成目標】8-4-3 我が国の文化財国際協力分野における国内機関の連携体制の強化など、国内体制を整備する。また、専門家の人材育成や、国際機関等とのネットワーク形成などにより、発信力の強化を図る。</p>	
④事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財国際協力コンソーシアムの形成(新規)</li> <li>緊急的文化財国際事業への支援</li> <li>国際会議の開催</li> </ul>	
⑤予算額及び事業開始年度	<p>【予算額】 17年度予算額:69百万円 18年度概算要求額:110百万円</p> <p>【事業開始年度】 16年度</p>	
⑥事業開始時において得ようとした効果	<p>【事業開始時の意図】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化財分野の国際的な要請等に対応するための経費。</li> </ul> <p>【事業開始時の成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul> <p>【事業開始時の目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>	
⑦得られた効果	<p>東京外国語大学で実施した「アフガニスタン文字文化財支援事業」に対し、専門家を招へい支援し、アフガニスタンの当該分野の専門家人材育成に寄与した。</p> <p>また、国際会議「有形文化遺産と無形文化遺産の保護—統合的アプローチをめざして」(ユネスコ等と共催、平成16年10月開催)及び国連防災世界会議「セマティック・ミートン」(ユネスコ・イクロム・文化庁—文化遺産危機管理)(ユネスコ、イクロムと共催、平成17年1月開催)を開催し、専門家間のネットワーク形成や我が国からの発信力強化に寄与した。</p>	
⑧得ようとする効果及び上位目標との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保護国際協力コンソーシアムの形成(新規) コンソーシアムを形成することによって、文化庁、外務省などの行政機関や研究機関間の情報を一元化・共有し、戦略分析をし、客観的な評価を加えることによって、効果的・効率的な国際協力の実施を支援する。 参考指標:参加機関数、HPアクセス数、情報収集・提供・把握件数等</li> <li>緊急的文化財国際事業への支援 各国からの要請等に応じた専門家等の現地調査や派遣、各国の専門家の招へいを通じて、専門家の人材育成に資すること。 参考指標:事業によって当該国で活用できる技術を習得すること。</li> <li>国際会議の開催 日本で国際会議を開催することにより、文化財分野でユネスコ等国際機関との結びつきを強めるとともに、我が国の文化財保護分野における発信力を高め、国際ネットワークを形成する。 参考指標:会議参加国数、国際関係機関の参加状況、成果物の活用状況等</li> </ul>	<p>⑨達成年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コンソーシアム: 平成22年度</li> <li>貢献事業: 当該年度から各事業による</li> <li>国際会議の開催: 当該年度</li> </ul>
		⑩必要性

	我が国からの発信力を強化し、国際的ネットワーク形成を図るためには、日本で国際会議を開催する必要がある。
⑪効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保護国際協力コンソーシアムの形成（新規） コンソーシアムというハブを作り、情報を集約、一元化することによって、文化財国際協力事業の効果的・効率的な実施が図られる。</li> <li>緊急的文化財国際事業への支援 相手国や国際社会の要請にかなった支援を行うためには、現在我が国に蓄積されている我が国の人材や経験を活用した人材育成をすることが効率的である。</li> <li>国際会議の開催 国際会議を開催し、複数国が一同に会し、対面折衝をすることによって、相互理解が深まり、有機的に議論が展開できる。これらによって効率的にネットワークが広がる。</li> </ul>
⑫想定できる代替手段との比較考量	
⑬有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保護国際協力コンソーシアムの形成（新規） 参考指標：参加機関数、HPアクセス数、情報収集・提供・把握件数等</li> <li>緊急的文化財国際事業への支援 参考指標：事業によって当該国で活用できる技術を習得すること。</li> <li>国際会議の開催 参考指標：会議参加国数、国際関係機関参加状況、成果物の活用状況等</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保護国際協力コンソーシアムの形成（新規） 5年後に実績評価を行う。詳細未定。</li> <li>緊急的文化財国際事業への支援 研修を受けた専門家へのアンケート、相手国・相手機関の反応調査等</li> <li>国際会議の開催 開催状況調査、関係機関、関係国の反応調査・把握等</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保護国際協力コンソーシアムの形成（新規） 現段階ではこのような役割を果たす組織がないので、文化財の国際協力について連携不十分であるが、本事業を実施することによって、情報が一元化でき、それを共有することによって各事業の連携が強化され、効果的・効率的な国際協力が実施できるといった効果が得られると判断。</li> <li>緊急的文化財国際事業への支援 研修を受ける専門家等がこの事業によって満足すること。（今後アンケート調査実施予定）</li> <li>国際会議の開催 国際的情報を収集することが可能となり、我が国の発信力が国際的に認められること。</li> </ul>
⑭公平性、優先性	[政策の特性に応じて、必要により評価]
⑮評価に用いたデータ・情報・外部評価等	
⑯備考	

# 文化財保護国際貢献事業（文化財国際協力コンソーシアム）

## 理念

人類共通の文化遺産を国際的な協力の下に保護する

## 問題点

個別の機関が行っている文化財国際協力全体が十分に把握されていない。  
日本全体で、地域的、分野的バランス等を考慮し、戦略的に文化財国際協力を十分に行っていない。 等

## コンソーシアムの機能

文化財国際協力に関する戦略分析  
情報ネットワークやデータベースの構築（情報収集、情報交換、情報提供）  
学術研究集会等の継続的開催（人的ネットワーク、研究者交流）支援

## コンソーシアムの体制、機能・役割

### 【体制】

運営委員会、基本問題グループ、専門家グループ設置  
コンソーシアム支援体制の整備

### 【機能・役割】

戦略分析、評価、人的交流支援、情報ネットワーク構築  
地域情報交換、修復専門知識交換、学術交流機会の提供、客員研究員制度、研究成果公表支援、専門家養成支援 等

## 効果

各研究機関間等の連携強化

日本の文化財国際協力機関間の情報交換を促進し、効率的かつ効果的な文化遺産国際協力を推進する

文化遺産国際協力を通じた国際貢献の実施